

リアルタイム確認が可能に



専用モバイル端末で管理

「Digital Ribbon:デジタルリボン/ファブリケーター版」開発、発売へ

優(千葉)



大河社長

建築鉄骨の製作・管理のほか、製品検査委託などを主業務とする良(本社・千葉県富里市、大河太社長)のグループ会社である優は、このほど鋼構造製品管理Webシステム「Digital

Ribbon/ファブリケーター版」を開発、鉄骨ファブに向けて営業を開始する。鋼構造製品管理Webシステム「Digital Ribbon/ファブリケーター版」は鉄骨製作工程で①製品の位置の特定②製品出来高進捗の管理におけるリアルタイム確認③製品の誤出荷防止対応——を可能とする画期的なシステム。基本的なシステム環境としては、専用クラウドサーバーを利用したPC版ウェブクライアント(フリークライアント

制)ならびに専用モバイル端末(Android OS)を利用してウェブアプリで構成される。具体的な運用方法は製品情報製品リストおよび既存CADシステムから出力された図面dxfファイルをcsvファイルに自動変換・取り込みを行い、専用ラベルプリンターから「製品管理QRコードラベル」を発行する。製品にラベル貼付後、ウェブアプリを利用した位置ロケーション管理、工程別リアルタイム出来高進捗の管理、NG判定機能を用いた出荷管理をシームレスに実行するメニュー構成・運用手順を採用している。

結果的に社内管理はもちろん、得意先への現在の出来高進捗の説明のほか、製品検査や出荷業務に対応した工場内、屋外製品ヤードのどの位置に製品が保管されているかがPC版ウェブクライアントおよび専用モバイル端末上で簡単に把握できる。また、出荷積み込み時

に予定外製品の過誤選択時や積み忘れが発生した場合に専用モバイル端末の検品アラート機能によってよりシビアな誤出荷防止対応が可能となる。さらに外注製作が発生した場合には、協力工場に対し専用モバイル端末と製品管理ラベルを貸与・受け渡すことで社内と同様の管理を実現することも可能となる。

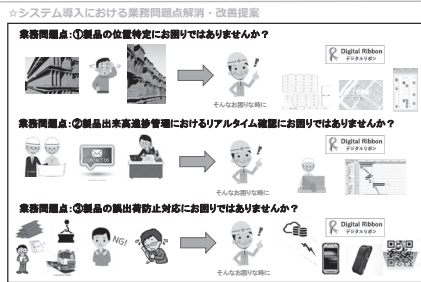
すでに同社は同システム/シャーリング版を先行的に開発、テスト運用を経て納入実績もあり、今回、ファブリケーター向けに専用機能を充実させた開発・販売に踏み切った。同社試算では同システムを用いることで全体の時間効率が130時間/月短縮でき、管理コストも大幅に削減できるとしている。

大河社長は約30年間にわたりファブ、シャーリングの各分野に関与・従事してきた経験から、ヒューマンエラーをなくして作業の標準化を図ることが生産性の向上につながる大きなテーマと考えている。「社内管理におけるさまざまな課題

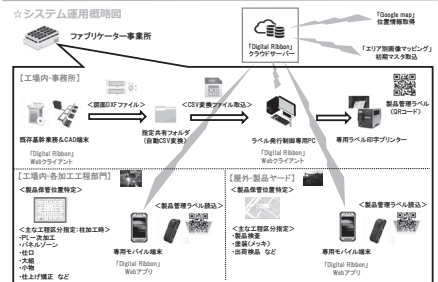
に対し、このシステムをご利用いただくことで少しでも業界が良くなってくれば」という。

「Digital Ribbon/ファブリケーター版」の標準システムセット(基本ソフトウェア+専用ハードウェア一式)の販売予定価格は約600万円(税込み)。導入予定先からの個別お問い合わせは、<https://yudr.co.jp>。

～鋼構造製品管理Webシステム「Digital Ribbon」ファブリケーター版～



～鋼構造製品管理Webシステム「Digital Ribbon」ファブリケーター版～



「Digital Ribbon/ファブリケーター版」システム概要